

秋田県の元気な地域の活動情報満載!!

元気ムラ通信 29号

「元気ムラ通信」は秋田県が運営する「秋田県のがんばる農山漁村集落応援サイト」(通称: 元気ムラ応援サイト)で紹介する地域を中心に、県内の地域づくり活動を紹介しています。

●発行日: 令和4(2022)年2月15日

あきた元気ムラ
応援サイトは

元気ムラ で検索

- Twitter アカウント
→@akitagenkimura
- facebook →「あきた元気ムラ」



元気ムラサイトを
携帯電話・スマート
フォンで見たい方は
←こちらから!

ワークショップを 楽しもう♪

三種町
「かどコミュ!」の
みなさん



2021年11月20日の「かどコミュ!」

今年度、三種町の鹿渡(かど)地区では、県のコミュニティ生活圏形成事業でワークショップ(座談会)を開催し、「これからの地域をどんな風にしたいか?」「そのためには何をすればいいか?」などを住民の皆さんが話し合い、活動計画を立てています。今回は、そんな鹿渡地区の1年をご紹介します。

「かどコミュ!」はこんな感じ!



でも自分の暮らす地域のことだし...

1 これからの地域活動...うーん、なんか難しそう



幅広い年代の人たちが集まった!

2 地域活動に興味がありそうな人に声がけ

「鹿渡地区のコミュニティだから...」

かどコミュ!
でいこう!



3 ワークショップの会の名前をつけよう

かどコミュ! 全体スケジュール案

6月 第1回ミーティング ■ 昨年のふりかえり ■ 目的とゴール確認 ■ 関係者リサーチ	7月 第2回ミーティング 鹿渡の問題リサーチ
8月 第3回ミーティング 計画のアイデア出し	9月 第4回ミーティング 計画選び
10月 第5回ミーティング 活動計画表づくり	11月 第6回ミーティング ■ 今年 ■ 来年の

4 ワークショップ開始!

スーパーとかで人と偶然会うことが少なくなったね

どうして人と繋がる場が減ったのかな?



5 地域の現状や課題を分析して、みんなでアイデア出し

自由に人が集まれる場所があればいいね

6

ワークショップを5回開催し、「活動計画表」を作っています。

お菓子もってきたよ!

7

「やりたいこと」が増えてきた!

集まるのが楽しい!

情報コーナーをつくらう!

8

来年度から自分たちが作った活動計画を実践していく予定です!

連絡はLINEで取り合おう!



「かどコミュ!」参加者の湯沢晃平さん

「かどコミュ!」は、みんなが楽しみながら参加していることが印象的です。様々なアイデアやスキルを持った方々が集まっているので、それぞれの力を活かしながら「多世代が集い・つながる場」づくりを目指していきたいです!

「かどコミュ!」は、地域づくりに関心のある人が、普段考えていることを意見し合うことで、必要なアイデアや協力者が集まっています。

ワークショップのひとつの目標に「多世代が集い・つながる場」を新たにつくることがありますが、人と人が繋がるこうした話し合いを続けていくことも、地域の将来づくりに結びつくのではないのでしょうか。

「自分ごと」で 地域を見つめ直そう

県のコミュニティ生活圏形成事業のモデル地区では、住民の皆さんが、地域の現状分析を行い、ワークショップで考えやアイデアを出し合い、これからの地域について話し合いを進めています。

地域を
どうしたい？

そのためには
何が必要？



2021年11月27日
大阿仁地区(北秋田市)ワークショップ

ワークショップは 目標を見つける手段のひとつ

ワークショップは、自分の地域に合った夢や目標を見つける手段のひとつです。みんなで考えることは活動の一步を踏み出すきっかけにもなります。また、話し合いだけでは疲れてしまうので、やる気を保つために、気軽に「出来る」ことにチャレンジしていくのもポイントです。



2021年11月30日
岩館地区(八峰町)ワークショップ



2021年12月5日
川上地区(小坂町)ワークショップ

どの地域でも人口減少が進み、コロナ禍で明るい話題が乏しいかもしれませんが、現実と目標の間を少しずつ埋めながら活動していけば地域に元気が生まれてくるのではないのでしょうか？

自分の地域の
レベルに
あったものを
探そう

実際にこんなことが 行われています♪



馬場目地区
(五城目町)

馬場目地区では、月1回、「カフェ chotto (ちよっと) ちゃっこ」というランチ会を開いています。

子供から高齢者まで幅広い世代に集まってもらおうと、住民の女性スタッフが交代制で献立を考え、「無理はしないで楽しむ♪」「みんなの意見を取り入れる」などを心がけて活動しています！



山内地区
(横手市)

山内地区では、令和4年度から始まる「山内地区交流センター」の事業計画を立てています。

従来の公民館事業に、ワークショップで出されたアイデアを加え、貸館業務や生涯学習事業、地域の自主活動などを行います。

1月13日には住民の皆さんによる運営協議会の設立総会が開かれました。今後の活動が楽しみです。

ワークショップ (座談会)を 楽しむ心がけ

①否定
しない

②耳を
澄ませて
聞く

③答えは
一つと
思わない

④アイデアを
つなげる

⑤発言は
短く

発言は1人
2分以内が
ベスト♪

⑥心の変化を
受け入れる

ワークショップの
主役は、その場の
「全員」です。
参加する皆さん
が、楽しさを感じ
られるかどうか
大切です。

コミュニティ生活圏形成事業 全県報告会を開催します

今年度のモデル地区の活動報告や
パネルディスカッションを開催予定です。

●日時：3月22日(火) 13:30～16:00

●会場：秋田県庁第二庁舎 8階・大会議室
(住所：秋田市山王3丁目1-1)

新型コロナウイルスの
感染状況によって日時が
変更になる場合があります。

コラム 小さなことから“やってみよう”

昨年11月、岩手県花巻市の皆さんが、大仙市余目地域の直売所「e-かげんなちゃん母ちゃんの店」と、南外地域のお互いさまスーパー「南外さいかい市」に視察研修に訪れました。

地域住民による店舗運営はハードルが高く感じるかもしれませんが、両地域とも最

初はプレハブ小屋や、テントの直売市からのスタートでした。いきなり店舗を構えるのではなく、まずは自分たちで「商売」を経験し、活動の積み重ねで現在に繋がっています。視察の際に、地域住民の方が「とりあえずやってみよう！」と話していたのが印象に残る視察交流でした。

南外さいかい市は
プレハブ小屋からスタート。
現在は移動販売車の運行も行い、
活動の幅を広げています



テントの直売所から
スタートした余目地域は、
そば処を作り、地域外からも
お客さんが訪れるように♪

元気ムラの地域活動

今年も雪が多い冬となりました。

あたたかい物を食べて、寒い冬を元気に乗り切りましょう♪



山田地域
(大館市)

住民運営による 商店とカフェ

山田地域では、昨年9月、地域唯一の商店がなくなったこともあり、住民が運営する商店「Storeたんひ(ストアたんひ)」と、併設する交流サロン「Cafe Acco(カフェあっこ)」をオープンしました。

住民の皆さんが県のコミュニティ生活圏形成事業でワークショップに取り組み、意見交換を重ねて実現したものです。食品、惣菜や日用品の他、産直野菜などを販売しており、スタッフは主に地域のお母さん達です。

20席ほどある交流サロンは、いつでも自由に集える拠点として、イベントや講座の開催場所として活用されています。

さらに、調理師資格をもつスタッフが、週2回、予約のみで手作り弁当を販売しています。また、地域内の一人暮らしの高齢者に向けた配達販売もスタートしました。

「たんひ」と「あっこ」は住民によって支えられている地域の拠点になっています。



浅見内地域
(五城目町)

みせっこあさみない 5周年祭♪

浅見内地域の住民が運営する商店「みせっこあさみない」は、お母さんたちの料理の腕を生かした「食事スペース」も完備しています。

昨年春に5周年感謝祭を開催予定でしたが、コロナ禍でやむなく延期に。しかし、「5周年を迎えることが出来たのは地域の方々のおかげ」「どうしても感謝の思いを伝えたい」と、昨年11月、地域の皆さんに食事をふるまうという形で感謝祭を開催しました。三杯酢を鍋で少し煮て冷ましたものに、フルーツ缶詰や春雨、きゅうり等を入れて作るデザート“あじゃらっこ”も振る舞われ、フルーツポンチ風で、さっぱりとした味が好評でした。

当日は天候にも恵まれ大盛況!「一人暮らしで寂しいから、人の往来を見ているだけで楽しいよ!」「地域にこういう場所ができて本当に助かっている♪」と話す方も。住民にとってなくてはならないお店であり、地域の憩いの場になっています。



亀田地域
(横手市)

“りんごの里”存続へ 体験イベント

りんごの産地・亀田地域では、毎年2月に開催していた「担い手交流事業」を、“講演会”形式から「ワークショップ(体験型講座)」に切り替え、“雇用の確保”をテーマに、平成31年から計3回、ワークショップを開催しました。

「りんごの里」の存続には担い手となる人材の確保が不可欠です。この課題を解決していくために、全住民にアンケートを実施したところ、地域のりんご農園を地元の方々に深く知ってもらふ必要性が明らかになりました。

そこで、亀田地区交流センター運営協議会は、昨年10月、“りんごの園地散策～もぎ取り体験～”を開催。約3キロの道のりを歩き、果樹園を散策、最後はリンゴのもぎ取り体験で締めくくりました。参加者はりんごの生命力と2m近くの積雪時にも対応してきた農家のがんばりを体感したようです。「りんごの里」の存続に向けてさらなる一歩を踏み出し、新しい力を呼び込もうと頑張っています。

「つくる」ことは楽しい♪

料理でも工芸品でも、何かを作るのは手間がかかります。でも、面倒な作業だからこそ、出来上がった時の達成感はひとしお。地域活動にも「つくる楽しみ」を取り入れ、皆さんで分かち合ってみませんか?

横堀地域(湯沢市)



桜の保全活動の一環で折れた枝をチップにして燻製づくりを楽しみました。

黒沢のお母さんが作った彼岸花は地元のスーパ等販売しています♪



黒沢地域(美郷町)



増田地域(横手市)

りんごの枝、葉、皮から作った染液でハンカチなどの「りんご染め」に励んでいます♪

※2021年に取材したものを掲載しました。

地域から
元気を
発信!!

地域からの メッセージ No.28



羽後町・仙道地域 仙道番楽団の皆さん

夜になると会館から聞こえる太鼓の音。
練習が始まると真剣なまなざしに。



仙道地域に古くから伝わる仙道番楽。毎週木曜夜、仕事を終えた番楽団の皆さんが、新処（あらところ）集落の会館に集まり、練習が行われています。

練習風景には女性の姿も見られ、現在、3人の女性が番楽の舞手として参加しています。

子供の頃、学校の授業で踊った経験のある方もいれば、獅子舞役のお父さんに憧れて参加する娘さんの姿も。

また、昔から番楽は新処集落を拠点に受け継がれてきたため、他の集落に住んでいた女性は「番楽団には入れないもの」と思っていたそうです。

番楽団でメンバーを募集していることを知り参加したところ、家族や同じ集落の人から「うちの集落から踊り手が出るのはすごい」と喜ばれたそうで、現在、地元の小学校児童の郷土芸能の指導も女性たちが行っています。

「番楽」がつなぐ、人のつながり

仙道の皆さんにとって、番楽は子供の頃から身近な存在でした。

しかし、中学生になると部活動などで忙しくなり、番楽と関わる機会が減ってしまいます。

でも、そこは不思議なもので、大人になり、親となって、自分の子供が番楽の練習に通うようになると、お子さんの姿を見ているうちに、また演じたくなるそうです♪

「伝統芸能」というと、敷居が高く感じることもありますが、仙道番楽団の練習風景は、とてもアットホームなものでした。仕事の残業や農繁期が重なると両立は大変ですが、自分たちの踊りで観客から大拍手を送られれば、やりがいになるそうです。この日も新処会館から

太鼓の音が心地よく鳴り響いていました。



2021年10月に取材した内容を掲載しました。



地域の味 つゅっこ餅 (つゆ餅)



能代市の地域を訪れた際に出会った「つゅっこ餅（つゆ餅）」。つくたてのお餅をだし汁に入れて食べるシンプルなお料理で、昔は結婚式の場で振る舞われたそうです。だし汁の原料は、地鶏や野菜など家庭によって様々。栄養たっぷりの汁に、ほかほかのお餅をちぎって入れると完成です♪

編集後記

最近、テレビ番組の影響か、自分の祖父母が住んでいた場所を調べている方からの問い合わせが増えています。秋田を訪れたことは無いけれど、ご先祖様が暮らしていた土地の歴史が気になるようです。自分のルーツをたどることは、謎解きをしていくようで面白いかもしれませんね。

元気ムラ通信のご感想・ご意見も
お待ちしております！

【発行】秋田県 あきた未来創造部 地域づくり推進課（元気ムラ支援班）

●住所／〒010-8570 秋田県秋田市山王4丁目1-1 ●電話／018-860-1215 ●FAX／018-860-3875 ●E-mail chiiki@pref.akita.lg.jp